3日目（クルーズ2日目）

3日目　8月1日（土）

都市名	時刻	交通機関	スケジュール
クシャダス	07:00	船	《クシャダスへ入港》 着後、《自由行動》をお楽しみください。
	13:00	船	クシャダスを出港し《パトモス島へ》
	12:00～ ～14:00		昼食は、船内にてお楽しみください。
パトモス島	16:00	船	《パトモス島へ入港》 着後、《自由行動》をお楽しみください。
	19:00～ ～21:30		夕食は、船内にてお楽しみください。
	21:00	船	パトモス島を出港し《クレタ島へ》
			〈船中泊〉

6:00 トルコ・クシャダス港に入港

船中で1泊し(夏のエーゲ海は、大変穏やかな海で、船はほとんど揺れない。船室にいると陸上のホテルにいるのとほとんど変わらないのでグッスリ眠れる。当然昼寝も可)目が覚めるとそこは、トルコのクシャダス港。

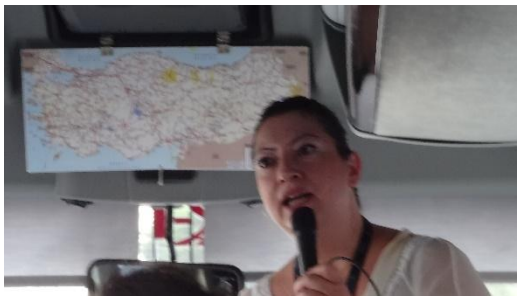
国をまたぐが、パスポートチェックなどの入出国手続きは、クルーズ船内で自動的に行われる。

7:00 朝食

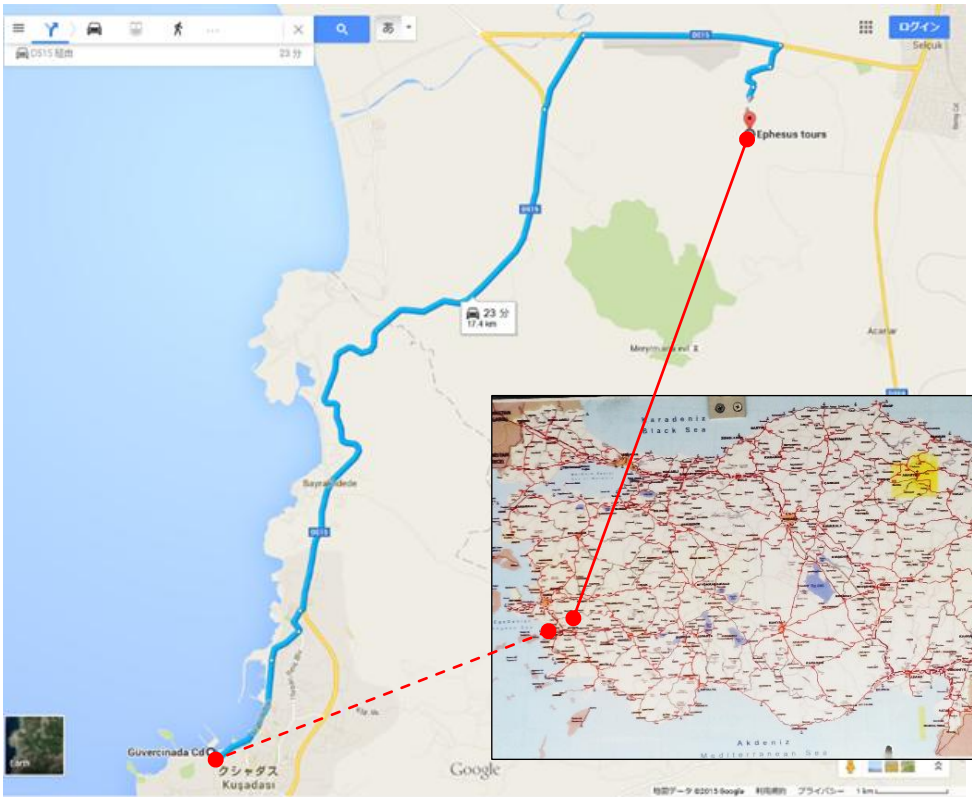
船内の食事は、結構おいしい。ただし、欧米人向けのボリュームなので調子に乗って食べていると…。「恐ろしいことになりますよ！」

9:00 エフェソス遺跡へのOPツアーに出発

各寄港地でOPツアーが用意されている。すべて、クルーズ会社が設定したものである。港には、各国向けのバスが約20台並んでいた(日本人向けは、No.15,16の2台)。日本語ガイド付き



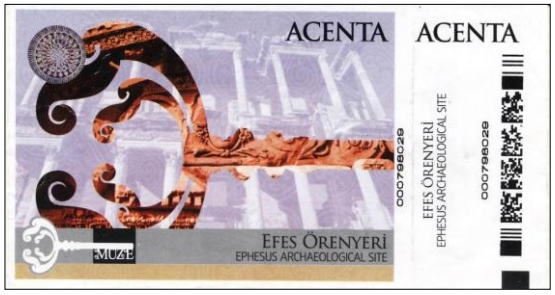
↑この方が、ガイドさん(残念ながら名前は失念)。なかなかわかりやすい説明でしたが、「お客様」がひっきりなしに入るのは、どうも…。



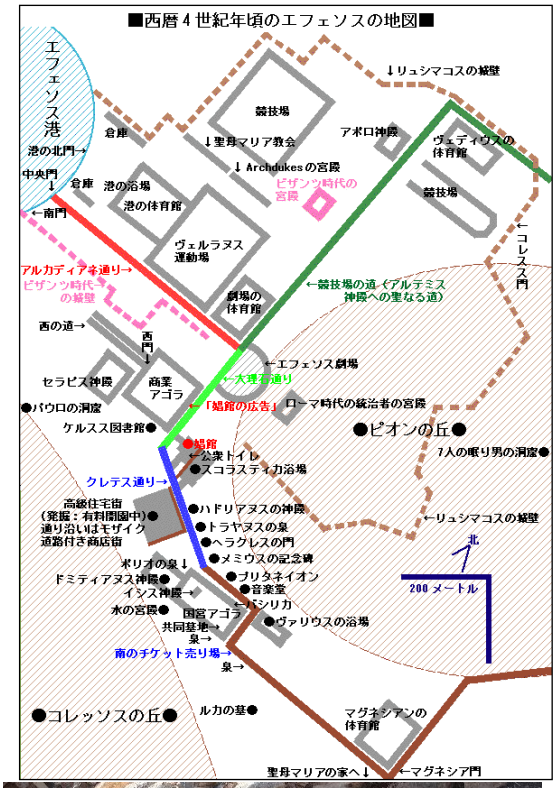
トルコの地図は、バスに掲出してあったもの

今回のツアーで(添乗員)一押しの**エフェソス遺跡**(トルコ)

入口付近の土産物店、価格はリーズナブル



入場券



入口付近から見える遺跡の風景

2000年前の上下水道管(表に出ているのが上水道、土に半分埋まっているのが下水道)直径は、約20cm

一般庶民の住居跡

古代の商業都市であったクシャダス

商業の神マーキュリーのシンボルである"蛇"の紋章が至る所にあった。

温暖で海岸にあったため本物の蛇も多かった。蛇が増えすぎるのを防ぐために"猫"を飼っていたそうである。

旧市街にあった劇場跡。

←滑り止めがあるこの敷石は、ローマ時代のオリジナル。

向うに見えるのが世界三大図書館の建物 →

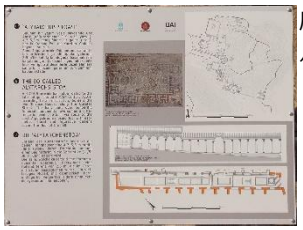
← トイレの遺跡
大事なことを決める議場でもあった。座を温めるための奴隷がいたそうな。

勝利の女神ニケの彫刻
(Nike=ナイキ)

これがスポーツ用品会社のマークの原型だそうだ。

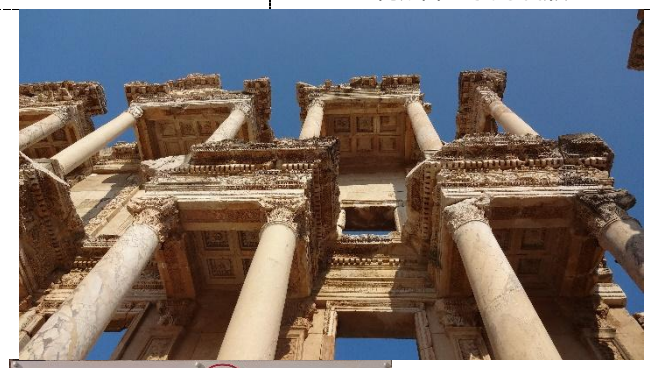
公衆浴場の入口にあるアーチ門

2000 年前のデパート



床のモザイクはタイル

何か書いてある石版



世界三大図書館の跡
立派なファサード(入口)に対して中はあまり広くない。

← 復元予想

5 万人収容できたと言われている大劇場
なぜか、オペラを唄っている日本人観光客がいた。

この写真は、埋没した港の跡。

エフェソスは、なんと今年「世界遺産」に登録されたばかり！

世界遺産　エフェソス(トルコ語：Efes　ギリシャ語：Ἔφεσος 英名：Ephesus)

エフェソスは、トルコの小アジア西部の古代都市。現在、イズミル県セルチュク近郊の小村アヤソルクの一部である。世界最大級の大規模な古代都市遺跡、アルテミス神殿遺跡、イエスの母マリアが晩年を過ごしたといわれる地に建てられた礼拝堂『聖母マリアの家』、聖ヨハネ教会、考古学博物館などがあり、トルコの重要な観光地の1つになっている。古典ギリシャ語読みではエペソス、エフェソ、エペソとも呼ばれた。もとは港湾都市であったが、土砂の堆積により現在は海岸から離れている。

2015年に世界遺産リストに登録された。

概 史

エフェソスの最初の住民はリュディア人で、アルザワ王国の首都アパサ(Apasa)がエフェソスであると多くの者が考えている。ミュケナイ文化に属する陶器が発掘されている。古典期のエフェソスはアルテミス崇拝で著名で、哲学者ヘラクレイトスの出身地である。紀元前356年、エフェソスのアルテミス神殿は、ヘロストラトスという男に放火され完全に焼尽した。神殿は再建され、世界の七不思議の一つに数えられた。

エフェソスはヘレニズム都市として栄えたが、紀元前2世紀に共和制ローマの支配下に入り、小アジアの西半分を占めるアジア属州の首府とされた。共和制ローマ最末期に第２回三頭政治の一頭として権力を握ったマルクス・アントニウスがプトレマイオス朝エジプトの女王*クレオパトラ7世と共に滞在した地で、かつ*クレオパトラとの内戦で敗北して捕虜となったアルシノエ4世が送られ、そしてアントニウスら2人の意向により殺害された地としても知られている。

その後、古代ローマ帝国の東地中海交易の中心となった。現在残るアルテミス神殿の遺構はローマ時代に建てられたもので、巨大な図書館(アレキサンドリア、ベルガモと並ぶかつての**世界三大図書館の一つ**)と5万人が収容される当時最大の劇場を備えていた。エフェソスの繁栄は港湾によるところが大きかったが、エフェソスの側にある2つの山から流れ込む土砂の堆積により2世紀頃から港湾の規模は縮小されていった。東ローマ帝国の下でも、エフェソスは引き続きアジア属州の首都として繁栄した。政治と経済の中心であり、キリスト教会行政の中心でもあった。7世紀半ばには、城壁が設けられ、また港への土砂の堆積が進んだので、古来の都市からアヤソルクの丘に中心を移した。その結果、市域は分散し、また拡大した。その後も経済活動は活発に行われたが、8世紀に至りアラブ人の攻撃をたびたび受けたことから、東ローマ帝国はエフェソスを放棄した。港が完全に埋まったのはその後のことである。

エフェソスには比較的早くキリスト教が入り、伝承では、エフェソの信徒への手紙(新約聖書にあるエフェソスの教会にあてた書簡)、史実性は否定されているが、使徒ヨハネはパトモス島での流刑後エフェソスの教会の主教(司教)を務めながら福音書を書き、イエスの母マリアもヨハネとともにエフェソスで余生を送ったと伝えられる。4世紀以降キリスト教が公認されると、エフェソスはたびたび教会会議や公会議の舞台となった。　面積：663 ha（緩衝地域 1,163 ha）登録区分：文化遺産（登録基準：(3), (4), (6)，登録年：2015年）

遺跡見学の後、革製品のショールームへ連れていかれなぜかモデルをやらされた。こちらの革製品は、仔羊皮が主で(西アジアのイスラム圏では主たる家畜は、羊または山羊である)非常に軽く柔らかい。しかし、残念なことに現在は円安ユーロ高(でも、例のギリシャ騒動のおかげでドルほどの割高感は無い)のせいで、買い物をしていたのは、ほとんどが中国人であった。ここでも「爆買」か。(その後の人民元切り下げでどうなったのか、知りたいところではある。)

バスの車窓から、見ての通りカラカラである

ところで、トルコは親日国と言われているがこの日のツアーでもそう感じることが多かった。行きの飛行機の機内誌でも、今年はエルトゥール号事件から126 年目とかで、親日気分を盛り上げていた。

しかし、地中海の夏は暑い。連日 38～39℃である(年に数回は 43℃まで行くらしい)。北緯 36~38 度なので、緯度としては日本と同じくらいなのだが、地面が大理石のせいで照り返しが半端ではない。下からの日焼け対策が必須である。

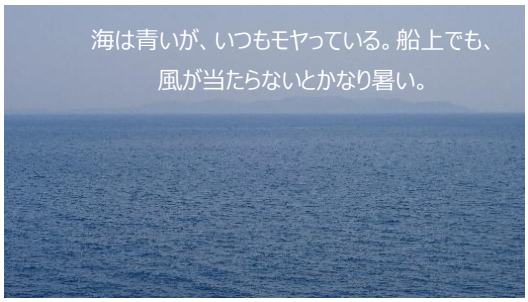
また、雨は確かに降らない(もう２か月以上降っていないそうだ)が、海の近くでは水蒸気が上がっているので体感上は蒸し暑い。さいたま市に帰ってきたのは８月上旬だったのだが、気温・湿度とも変わらないと感じた。むしろ、気温が高く日差しが強い分だけ地中海の方が、暑さは厳しいかもしれない。ただし、ミネラルウオーターが安いのは(€0.25～≒¥35～)助かる。

11:30 クシャダス港に帰ってきた

クシャダス港の近くには、グランドバザール(市場)があり買い物が楽しめた。

なんといってもトルコは物価が安い(1 トルコ・リラ≒¥45 ユーロも普通に使える)。トルコ土産としてタイル素材のナベシキと、かつて"DosPara"で売っていたペルシャじゅうたん柄マウスパッドを発見し購入したのだが、どこかに置き忘れてきたらしい。

12:30 船内で昼食



16:00 パトモス島着

パトモス島は、大型船が直接入港できないので、テンダーボート(ハシケ)で島に渡る。上陸するのはスカラ港といい、お土産屋などがある。海底にはウニがたくさんいるが、ギリシャ人はあまり食べないので殖える一方だそうだ。

実はここで、世界遺産の「聖ヨハネの修道院」と「黙示録の洞窟」へのOPに申し込まないという失敗をした。

ただし、この観光ポイントは賛否両論あり、これでも世界遺産なの？という書き込みも多いが、山の上からの眺めが絶景なのは定評がある。また、この日のガイドはなかなか良かったらしい。

19：00 船内で夕食　　食事中に出航。ゆっくり反転しクレタ島へ向かう。